

沙流川日高町富川地区水害タイムライン 第2回検討会

平成29年8月30日(水)に日高町門別総合町民センターにおいて、「沙流川日高町富川地区水害タイムライン第2回検討会」を開催しました。

タイムラインは、沙流川で水害発生の可能性がある際に早い段階から関係機関が連携して地域住民及び防災対応者の安全確保を図るための事前防災行動計画を言います。日高町では沙流川の氾濫を想定し、平成29年度に関係機関が集まって検討会を行い、「沙流川日高町富川地区水害タイムライン試行版」を策定、運用を開始する予定です。



【実施日時】 平成29年8月30日(水) 13:30~16:30

【実施場所】 門別総合町民センター 2階 大集会室

【参加者】 日高町・防災関係機関 6機関 41名
(副座長・アドバイザー・事務局等含む)

1. 開会

開会に際し、日高町の三輪町長から開会挨拶がありました。三輪町長は、平取ダムの定礎式が行われ完成後に下流の日高町の減災につながることを期待していること、日高道の工事が順調に進んでおり災害時においても救急や物資輸送等に好影響があることをお話されました。また、全国水害サミットに参加し、「災害時の混乱は想像を絶するものがあり、日頃の訓練や備えがなければほとんど失敗する。日頃から判断のための十分な準備を行い、住民にもしっかり伝えておくことが重要。」という意見が挙げられたことを紹介されました。本検討会でこれらが整理されることを期待しているとお話され、話を閉じられました。



2. 災害シナリオ・リスクについて

第1回で共有した災害シナリオ・リスクについて、ダムの放流情報等を追加し、改めて事務局の室蘭開発建設部から説明を行い、参加者で共有しました。



3. ワークショップ

欠席の松尾座長に代わり黒木副座長の進行にて、ワークショップを行いました。黒木副座長からは冒頭に、「今年の台風災害からちょうど1年の日にあたる。改めて要配慮者の命を守る必要性を認識している。また、現在アメリカではハリケーンが猛威を振るっているが、以前のハリケーンカトリーナと比べると犠牲者が少ない。タイムラインによって迅速な対応を行っている効果であると考えられる。日高地区でも平成15年に災害を経験しており、その経験をまだ十分生かせる時期であることから、経験を活かして検討に当たって頂きたい。」との挨拶がありました。

その後、事務局からワークショップの進め方の説明を行い、3テーブルに分かれてグループワークが開始されました。「意思決定グループ」では、災害時に日高町が行う意思決定事項の内容とタイミング及び支援機関の情報提供内容等について、「住民対策グループ」「施設対策グループ」では、日高町内の各部署における防災行動の具体的な内容や実施タイミングの検討を行いました。

検討結果は事務局で持ち帰り、整理とりまとめを行った上で「タイムライン素案」として第3回検討会での検討素材とする予定です。



4. 講評・閉会

本日の検討会全体を通して、藤間アドバイザー、志田アドバイザー、黒木副座長からそれぞれ講評を頂きました。藤間アドバイザーは「おそらく初めて具体的な防災行動を考えたと思うが、とても難しく感じたのではないかな。その心構えを感じて頂いたことが重要であった。」とお話されました。志田アドバイザーは「本日の検討を通じて、気象情報の見方・使い方がよくわからない方もいらっしゃると思う。気象情報を普段使いして見方を知って頂きたい。その先にタイムラインがある。検討会の中で气象台や開発局などのプロにどんどん聞いていってほしい。」とお話されました。黒木副座長は「台風情報を活かして少しでも前倒した対応を検討して頂きたい。また、要配慮者の避難を考えたときに、どこに避難するのか、通行止めはないかといったことも視野に入れて検討していく必要がある。」とお話されました。

最後に、司会から閉会が宣言され、第2回検討会は終了となりました。

